

学習へのまなざしの形成

—— 学習を振り返るための記述について ——

河野 令二

The Formation of Look to Learning
—— A Description to Look back on Learning ——

KOUNO Reiji

(Received January 10, 2006)

キーワード：学習、振り返り、まなざし、問い、記述

I. はじめに

造形の学習は、発見し工夫する活動を、創造的な制作の過程として取り入れている。造形活動を学習者自身が切り開くことで、学習は形成されていく。学習者は、学習を自身に問い返すことで、より学習を高めることができる。学習は、反省と希望、発見と工夫を繰り返すことで発展し、切り開かれるものになっていく。

反省と希望である学習への振り返りは、自覚的な学習を促すように企てられている。その時間の反省は、次時の学習への動機付けを期待し、学習の解決すべき課題の発見や、その解決に向けたできるだけぶれない学習を希望する。学習者は、学習を振り返ることで、学習を否定することを含めた様々な意識を、意欲や興味・関心とともに持つことになる。学習を振り返る方法には、ポートフォリオ、ワークシート、学習ノート、感想文など、記録の手法として様々な仕掛けが考えられる。

振り返りを最後に仕掛けることは、学習の成果を問うことを含めて、そこにたどり着くまでの学習へのまなざしをつくることになる。本稿は、2005年度前期初等科図画工作の授業の最終時に課した記述から、学習を振り返るまなざしの形成を考察したものである。

II. 授業について

授業者は全時間数15回のうちの割り当て分である5回の授業を行なった。題材は『ボックスアート』であり、概略は次のようなものであった。

授業に入る前時に¹⁾、プリント²⁾を配布し、題材を説明した。そして、自分が使いたい材料や使うための材料の準備を指示した。

授業の1回目は、ボックスになるスチレンボードを接着剤で組み立て、乾燥を待つことで、準備した材料を箱の中にどう構成していくのかを構想する時間になった。

授業者は、この時間に、プリントの二つの題材の差について以下のように解説をしている。

プリントには、材料を集めそこから発想していく方法と、テーマを決めて構想しながら材料を構成していく方法が示されている。作品の完成にたどり着く様々な方法があると思う。自分にあった方法を確認することが大切である。この授業では、「小学校学習指導要領図画工作」の目標に示されている「材料をもとにした造形活動を楽しみ、豊かな発想をするなどして、体全体の感覚や技能などを働かせるようにする。」³⁾、「材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、つくりだす能力、デザインの能力、創造的な工作の能力を伸ばすようにする。」⁴⁾、「材料などの特徴をとらえ、想像力を働かせて主題の表し方を構想するとともに、美しさを考え、創造表現の能力、デザインや創造的な工作の能力を高めるようにする。」⁵⁾ という材料との関わりや可能性を考え、偶然を伴うかもしれないが、作りながら、試しながら、といった試行錯誤を期待しながらつくる方法もあることを示唆した。また、静かに制作に集中することは自分の表現活動として大切であるが、今回は、周りの仲間と話し合いながら、制作のやり取りをすることも大切であり、私語を特に禁止せず学習をしている。

2回目以降は、制作の時間として費やされる。5回目の授業で作品を完成し、提出時に、「Ⅲ.」にあるプリントの記述をしている。5回の授業で完成できない場合は期限を設け、作品と記述したプリントを後日に提出させている。

受講生は、34名、作品の提出者33名、レポートの提出者は32名である。

Ⅲ. 学習の振り返りー記述から

授業の最後に配布したプリントは、以下である。図1「home made」の学生は、次のように記述をしている。

初等科図画工作レポート 2005 7. 1.
 専攻 学籍番号 氏名 ○ ○ ○ ○

1. 作品に意図したこと、主張したかったこと。

布や糸、ボタンという手芸品を使うことによって家庭的なものをイメージした。また、折り紙や包装紙を使って暖かい感じを出し、全体的に形を丸で統一して、やさしい暖かさを表現した。丸という形は角がなく、どこことなくホットさせる。

2. 作品にタイトルをつけるとしたら

home made

3. 使った材料について	どこで手にいれたのか	どのように加工したか
・ ボタン	・ 家	・ 布に縫ったり、張ったり
・ 糸	・ 家	・ ボタンを通したり、布をぬう
・ 包装紙	・ 家	・ はさみで切り取った
・ 布	・ 家	・ 糸で周りをぬってBOXに貼った
・ 折り紙	・ 家	・ はさみで切り取った
・	・	・

4. 工夫したこと。発見したこと。考えたこと。うまくいったこと。失敗したこと。……。工夫したことは、ボタンに糸に通して、箱の中につるしたり、布の貼り方を各面統一せず、全部違う貼り方をしたこと。また、布にボタンを縫いつけたり、刺繍をしたりして、それをアクセントにした。失敗したことは、先に糸をBOXの中につるしてしまっただので、箱のそこの作業がやりにくくなった。また、糸でつるしたボタンを固定するのが難しかった。

5. 友達とのやり取りでためになったこと。(話したり、目で確かめたりしたこと。) わざわざ材料を調達してくるのではなく、普通ならゴミになるような材料を上手くアレンジしていた。材料に関しては、面白いものを使っている人が他にもいたので、それは参考になった。さらに、その材料を使って何かを作るといことをして、私のBOX ARTにはそれがないので、そうしたところもためになった。

6. この課題に取り組んでの感想を、自由に。
はじめ、何もない箱にどのような飾りをつけようか考えていると、いろいろなことが頭に浮かんで、イメージが統一できず、なかなか作業にはいれなかった。でも、とりあえずやってみると、もっとこうした方が良いとか、こういう感じにしようというのがどんどん出てきたので、とりあえずやってみることが大切だと思った。また、材料集めの段階で、どれだけいろいろなものを準備できるかも重要だと思った。そして、人の作品に触れることによって、新しい発見や参考になるものがあるので、鑑賞というのも必要だと思った。

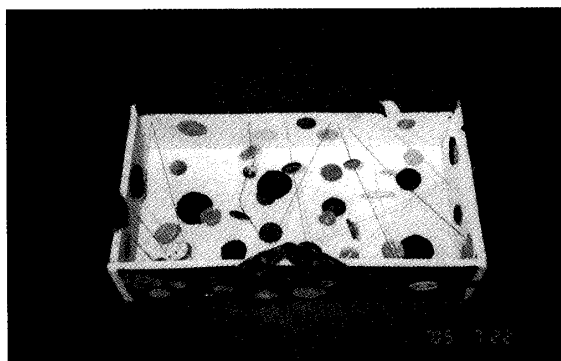


図1 home made



図2 I love me

1. 作品に意図したこと、主張したかったこと。

この問いは、「2. 作品にタイトルをつけるとしたら」と同様の問いであるが、作品へのはじめから完成までをつないでいた制作への意欲を問うものになっている。

多くの学生は、はじめの段階で明確な意図を発生させてはいない。図1「home made」の学生は、「6.」の記述にあるように、はじめ、何もない箱にどのような飾りをつけようか考えていると、いろいろなことが頭に浮かんで、イメージが統一できず、なかなか作業にはいれなかった。でも、とりあえずやってみると、もっとこうした方が良いとか、こういう感じにしようというのがどんどん出てくる制作の過程で作品への意図がより明確になっていく。記述の多くは、作品への意図や主張を跡付けることになる。それは、作品への意図を明確化することを含めて、学習が成り立つことを見せている。

図2「I love me」の学生は、私は今まで生まれてからずっと幸せに育ってきた、色々なことを経験し、本当に楽しい生活を送ってきた。そのことの自慢と周囲への感謝の気持ち。と記述し、「6.」で、最初からテーマを決めて制作をしたので一貫したものができて

よかった。」と記述している。

また、図3「連なる鳥居」の学生はその明瞭さを記述している。
とにかく、鳥居を作りたかった。しかし、並び立つ鳥居を。思いつくままに、様々なものをくっつけていく方法も考えたが、この課題を聞いたとき、はじめに思いついたこの鳥居をつくることに決めた。夕焼けと鳥居の組み合わせを作りたかった。風景のイメージ。

記述は、材料の準備を経て、思いを形にする制作での試行錯誤を繰り返す中で、確かめられていく表現の中心に言葉を引き寄せていく。

図6「森の情景と希望の光」の学生は、次のように記述している。
夜の寂しい世界を月光が照らしている様子から、「どんなに気持ちが落ち込んだり、絶望したりしていても、“希望”や“夢”という光が必ず心の中にさしこんでくる」という望みを表現したいと思った。

また、図9「ちっちゃな楽しみ」の学生は、次のように記述している。
ごちゃごちゃした世界の中の小さな平和と幸せとか喜びとか楽しさみたいなものを表現したかった。

記述の表現の意図や主張は、イメージを解釈し、作品を説明する。

2. 作品にタイトルをつけるとしたら

この問いは、作品に対する率直な表意になっている。記述されたタイトルは明確であり、作品と響きあうまなざしになっている。

以下がこの問いへの記述である。

「内側」、「島国日本」、「Magazine House」、「てるてる坊主の雨宿り」、「夏～18才だったあのころへ」、「私の宝箱」、「自分の未来へ」、「思い出の森のブランコ」、「鶴が教えてくれた自由な世界」、「わび、さびのある日本のすずしい夏の庭」、「海辺の二匹」、「ひとやすみ」、「パーティー」、「SEA」、「I love me」、「夏」、「home made」、「黎明期」、「望郷」、「ちっちゃな楽しみ」、「森の情景と希望の光」、「HANA」、「日常生活」、「Present!!」、「パンダの箱」、「連なる赤鳥居」、「Happy Birthday」、「心の中にあるもの」、「私の心」、「悪夢」。

記述のない学生は2名である。

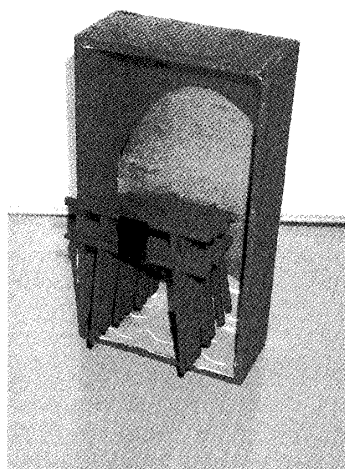


図3 連なる赤鳥居

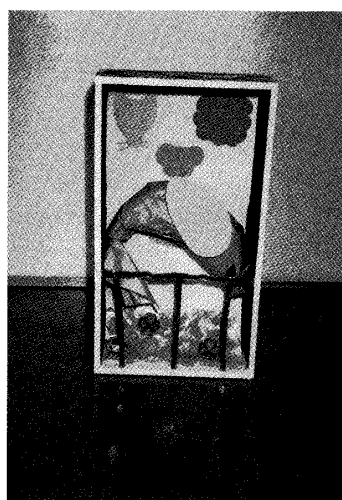


図4 望郷

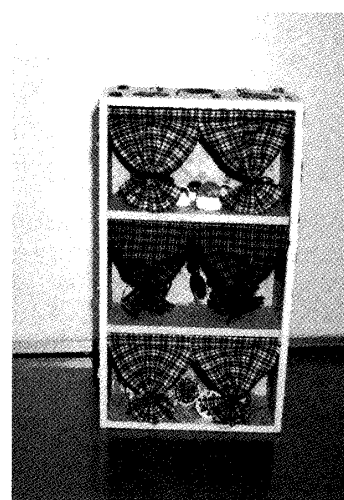


図5 私の宝箱

3. 使った材料について どこで手にいれたのか どのように加工したか

この問いは、「4.」の問いとともに、準備の段階や、制作の過程での材料とのやり取りを記述する問いになっている。

材料については、身近材として身近で準備できるものを期待した。多くはホームセンターや百円均一の店、文具店等で購入されたものが多かった。図1「home made」の学生は、材料を家から準備し、そのタイトルのように自分の思いを箱に構成していった。

図4「望郷」の学生は、次のように記述している。

使った材料について	どこで手にいれたのか	どのように加工したか
・折り紙	・百円ショップ	・クローバー（花）、いるかの外側
・画用紙	・百円ショップ	・イルカのヒレ、内側側面、花畑、動物
・ラッピング用の袋	・百円ショップ	・模様を切り取ってクローバーの花畑
・ラッピング用のひも	・百円ショップ	・檻
・モール	・百円ショップ	・檻
・新聞紙	・友達にもらった	・イルカの中身

図7「Happy Birthday」の学生は、次のように記述している。

使った材料について	どこで手にいれたのか	どのように加工したか
・紙粘土	・店	・ビーズをはめてケーキをつくった。
・ゼリーのカップ(小,大)	・家を出たプラスチックごみから	・小→まわりに紙や布をつけた。 ・大→上にケーキをのせた。
・リボン	・家	・長さを切って調整して貼り付けた。
・ビーズ	・家	・接着剤で箱の周りにつけた。ビンの中に入れた
・包装紙	・家	・箱の側面と内側に貼った
・ミニチュアの椅子、ギター	・家(ドールハウスから)	・接着剤で貼りつけた。
・造花(花、葉)	・家	・花は茎にビーズを通してビンの中に入れた。葉は、表面にマニキュアをぬり、茎にビーズを通した。

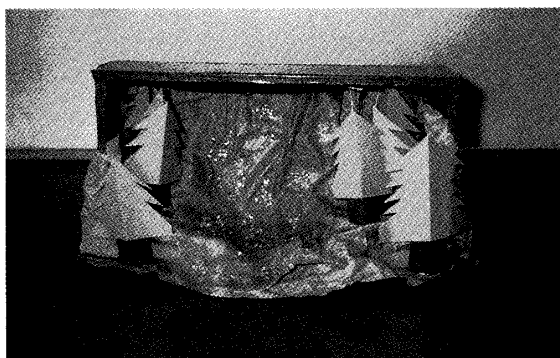


図6 森の情景と希望の光

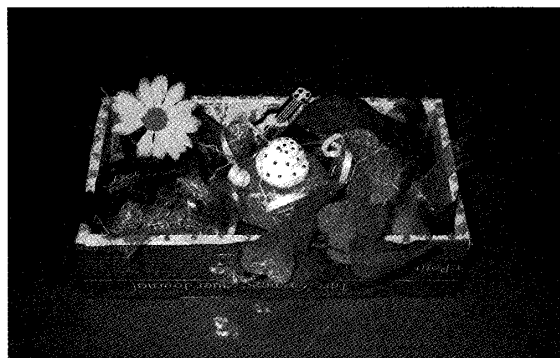


図7 Happy Birthday

多様な材料を準備することで、箱の中を豊かにする可能性がある。この学生にとって、材料はこのプリントの欄を超えて豊かに準備されている。材料をどう生かすかを発見し、工夫しながら作品へ成熟していく学習が4. に記述されていく。

箱につめられるできるだけ多くの材料や思いに耐えられる材料を準備することが求められていたわけではない。ここでは、準備することを含めた学習があり、材料を思いにしていく技法との関わりで材料が形になっていく過程が平易に記述されている。

4. 工夫したこと。発見したこと。考えたこと。うまくいったこと。失敗したこと。……………」

この問いは、振り返りのいくつかの視点をつくることで、制作の過程での材料の加工だけでなく、様々な発見と工夫を記述させるものである。最後の「……………」は、さらに記述する視点を期待したものである。

図7「Happy Birthday」の学生は、次のように記述している。

リボンの端だけくっつけて、大部分を浮かせることで、自然な動きを出すようにした。壊れ物を入れるときに下にしきつめるもの（シュレッダーで切ったピンクの紙）を入れることで誕生日の華やかさを表現した。誕生日にこだわってしまい、ラッピングの紙やリボンなどありきたりのものしか思いつかなかったのでいろいろなものを使用すればよかった。作品全体のイメージがかたよってしまい、もっと想像力を働かし、工夫した作品をつくりたかった。

図8「Present!!」の学生は、次のように記述している。

白いクッション材を切り、長さを変えて文字を作りました。またクッション材の白を生かして、箱の周りに折り紙をはり、かすかに反射して色がうつるようにしました。また、見え辛いですが、箱の奥の面に新聞紙で「I」と切ってはり、かくれたメッセージにしました。色が映えるように周りは、黒一色塗りました。

図9「ちっちゃな楽しみ」の学生は、次のように記述している。

一番の工夫は、最後につけた接着剤。発見したことは、マカロニが良い材料になるなあということ。それで、マカロニで、虫を表現したのは、けっこう良かったと思う。失敗は、濃い色の中に折り紙を使って、原色をませこんでしまったこと。すべて、濃い色で統一したかった。

学生たちは、発見と工夫をそれぞれの視点で記述している。思いを形にしていく材料とのやり取りが、発見し、工夫することで表現へ定着することを記述している。また、作品への評価を含め、材料の構成を含めて何が失敗だったのか、どうそれを補完すべきかがまなざしに広がっている。

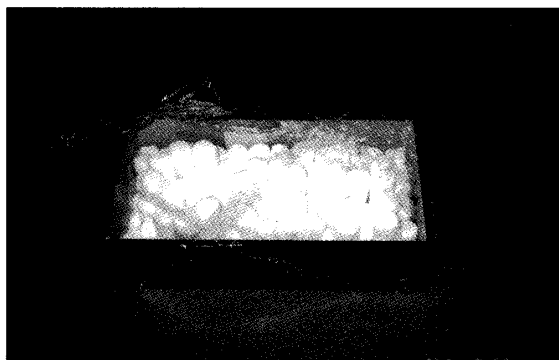


図8 Present!!



図9 ちっちゃな楽しみ

5. 友達とのやり取りでためになったこと。(話したり、目で確かめたりしたこと。)

この問いは、制作過程での友達とのやり取りや他者との関わりが、自分の制作にどう影響したのかを記述する問いになっている。包括的にその内容を記述しているが、そこでのやり取りを具体的に記述しているものは少なかった。

友達からのアドバイスや周りの作品を見ることで、自分の作品との比較やそこからの刺激が自分の作品へどう影響していくのかは、その影響が大きいほど端的な記述になっている。

図9「ちっちゃな楽しみ」の学生は、次のように記述している。

ためになったというより、友達の持っている材料が私が気がつかないものばかりで、たくさんゆずってもらった。針金をおりまげたり、マカロニを使ったことは、友達の作品を見ていいなと思ったところからはじまったので、友達のおかげです。

友達とのやり取りが、制作するなかでどう影響しあうのかを、図8「Present!!」の学生は、次のように記述している。

友達の作品は、みんな色使いがきれいで、そちらの方が楽しくてよい感じがしたので、最初モノトーンで作品を作ろうと思っていましたが、意図的にも変えたほうが良いとおもい、友達に折り紙をもらい変えていきました。結果的によかったです。

また、図7「Happy Birthday」の学生は、次のように記述している。

ビーズやリボン、小物を箱にとりつけるとき、それぞれに接着剤を使うのか、のり、テープを使うのかなどアドバイスをもらった。箱の上から、正面から、横からと見た時に、それぞれ作品の見え方が違うことに気付いた。自分でこだわっていたところを友達に指摘してもらい、感想やアドバイスを言うってもらうことで、違うアイデアが浮かんで、さらに作品のイメージを広げることができた。

アドバイスや自分が思いもしなかった材料の使い方や箱の処理や色の使い方を他人の作品を見ることで確かめるといったやり取りが、より創造的な制作へつながれていくことが記述されている。作品を表現していく過程で、自分を発見し、高めることが多くのやり取りのなかにある。そのことが、この「5.」の記述では、「4.」の材料とのやり取りで思いを形にする過程と同様に自分のまなざしの中に発見されている。



図10 パーティー

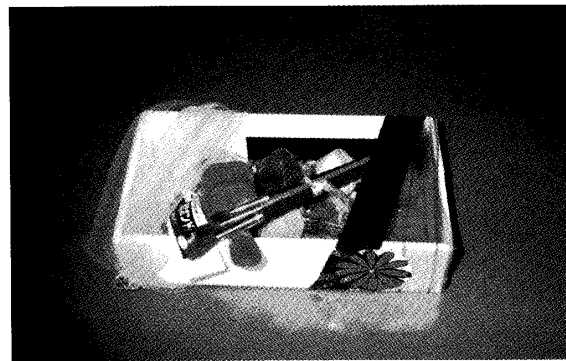


図11 日常生活

図10「パーティー」の学生は、「4.」で次のように記述している。

色画用紙をペンのまわりに巻いてカールをつくり、色々な色を使ってにぎやかな雰囲気を出した。ビーズを全体に敷きつめたが、うまく接着しなかった。箱をにぎやかにしたので、箱の外側は、落ち着いた感じにした。

そして、「5.」では次のように記述している。

友達から「もっと立体的な感じにした方がいいんじゃないか」という提案を受けて工夫してみた。接着剤を出して、その上にビーズを置き、固まったらビーズを取って、接着剤に残された跡で形をつくるといったような工夫をしている友達がいて、ためになった。

図11「日常生活」の学生は、次のように記述している。

自分では思いもつかなかったような材料を(トイレットペーパーのしんとか、空き缶とか)を使っているのを見て、そういう工夫の仕方もあるのかと驚いた。また同じ材料を使っても加工の仕方が違うだけで全く違った感じにあるのだなあと思った。作る人によって本当に作品が変わるのだなと改めて思った。

他者とのやりとりが、自分の制作だけでなく、他者への評価につながるまなざしとして記述されている。

6. この課題に取り組んでの感想を、自由に。

この問いは、制作を振り返ることで、題材への興味・関心を問うかたちになっている。多くは、テーマの決定から悩み始め、制作の過程でその課題を明確にしていく自分の学習を的確に振り返る記述になっている。学生たちの記述は、材料の準備やその加工、そして自分のうまくいかなかったことなどさまざまな視点から制作を振り返り、その獲得してきたことを記述している。図1「home made」の学生は、材料の準備や制作過程での試行錯誤の大切さや他人の関わりによって新たな発見があることを記述している。

図5「私の宝箱」の学生は、次のように記述している。

特に何も言われずに(使うもの、テーマなど)に始まったので、はじめは何をしたらいいのかわかりませんでした。何も言われないうのもやりづらいと思いました。とりあえず子供部屋のような、宝箱のようなものにしようとした。それなりに思い通りのものができて良かったです。これを子供にやらせたら、いろいろな工夫をするだろうし、楽しいだろうと思いました。私は、図工、美術が苦手だったけれど、とても楽しく取り組むことができました。

問いは、不確かであり、感想という漠然とした問い方である。しかし、学生の記述は、拡散することなく図画工作の学習の表現活動に対する考え方にたどり着こうとしている。

図6「森の情景と希望の光」の学生は、次のように記述している。

材料から何かを作るというのは難しいと思った。しかし、「箱」という枠があるにしても、1から10まで材料の準備から完成までを、自由に行うというのは、子供に「作る楽しみ」「表現する喜び」を味わってもらえることができるし、表現力や創造力、豊かな感性を身につけさせることができる。とてもよい題材だったと思う。また、他の子供と話しながら作業をすることで、お互いの内面を深く理解するきっかけにもなると思う。このことは、大学生である私たちにも、大人にとっても大事なことだと思う。

図12「てるてる坊主の雨宿り」の学生は、次のように記述している。

自由に発想していくのは難しい。例えば、今までだったら先生に指示を受けてやっていたのが、自分で考えながら進めていくのは思うようにいかなかったり、考えているけど表せなかったりなど、大変だった。もし、子供のころにこんな風に物を造るというのを多く経験したら、色んな発想が浮かび上がっていくんだろうなと思った。この時間を通して、子供の頃に返って「何をしようかな」とか、ワクワクしながら取り組めた事は、とてもよかつ

た。

自分の作品に言及する記述は、「4.」と関わりで自分の作品の評価に迫っている。図13「わび、さびのある日本のすずしい夏の庭」の学生は、「4.」で制作の試行錯誤を次のように記述している。庭の柵の作成はうまく言ったと思う。庭の中に池をつくろうと悩んだが、つくっても半端になりそうだったので中止した。家の中で寝ころんでいる人をつくったが、置いてみると変だったのでやめた。

さらに「6.」で、次のように記述している。

最初のイメージでは、ボックスが大きく感じていたが、実際に作っていると小さな感じがした。庭を造るのには小さかった。庭だけか、家だけにしぼれば、もっと空間が有効に使えたのかと思った。もっと日本の庭や、古い時代の家をイメージだけでなく、実際の写真や絵などを参考に作成したほうがよかったと感じた。

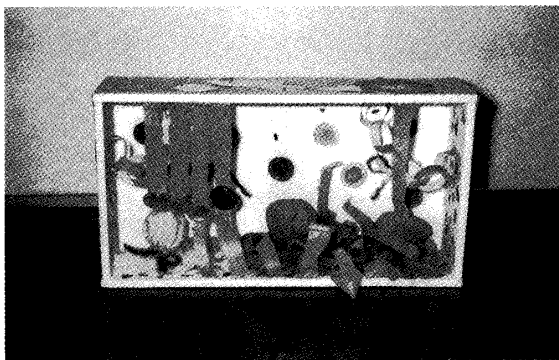


図12 てるてる坊主の雨宿り

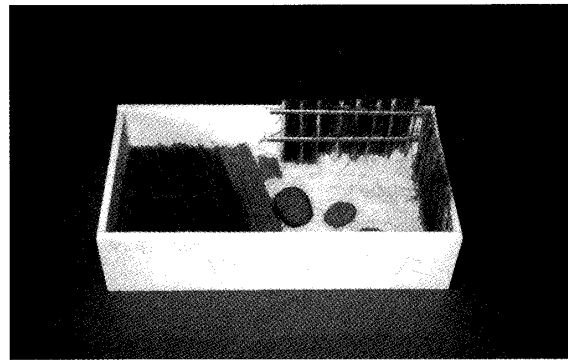


図13 わび、さびのある日本のすずしい夏の庭

作品への評価は、不満というよりも、作品に対する不足の補完や補充を記述している。

図3「連なる鳥居」の学生は、次のように記述している。

やはり鳥居の部分に大きな力をつぎこんだ。ここだけで、70%くらい、わりばしをあかくぬり、割り、切り、組み、貼り…。遠近を出すために、それだけで何時間も考えてしまいました。しかし、その分組みあがったときのうれしさはひとしおでした。この課題では、思うがまま、様々に作ったほうが正しいような気がしましたが、ある意味これも思うがままに作ってみました。メインカラーで赤を使いましたが、ハコをその色にそめたことにより、全体がまとまったように思えます。ただ、もう少し鳥居をたくさん作りたかったです。

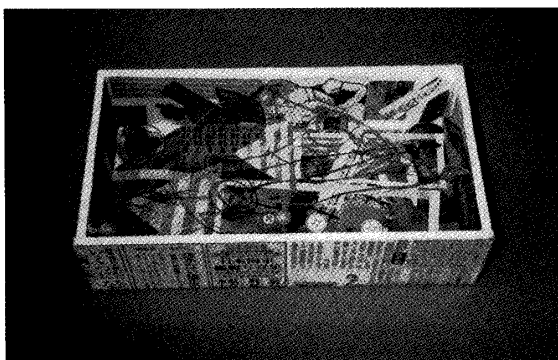


図14

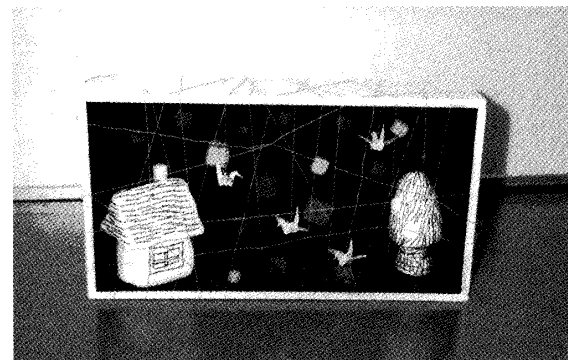


図15 心の中にあるもの

また、この課題への意欲や興味、関心を多くの学生が記述している。図14の学生は、次のように記述している。

日頃どう使おうとか考えないものでも使ってみようかなと思うと、いろいろ使い勝手がきいておもしろかった。でも、ひとつの箱の中で、まとめて何かを表現するのは難しいと思ったけれど、同時に見る人によってどうでも取れるのだなと思った。箱一つなのに、いろいろなことができ、いろいろなことが表せ、おもしろいと思った。

図15「心の中にあるもの」の学生は、次のように記述している。最初に箱を渡されたとき、何も浮かばなくとても困ったし、図工が苦手なのでやりたくないと思った。でも、友達にいろいろ相談したり、意見を聞いたりしてだんだん形になっていくにはとても楽しかった。最終的には満足のもののできたと思う。今回は家にあった不用品や購入したものなどを使ったけれど、空き缶や新聞紙など、ごみとされるものを使って作るのも楽しいんじゃないかと思った。

学生たちは、多くの発見と学習のまとめを簡潔に記述し、学習への評価を含めた振り返る視点をそれぞれに見せている。

Ⅳ. まなざしの形成のために

今回の試みが、学習のすべてを振り返るわけではない。学習の時間ごとに記述をする試みがあってもよいだろう。それは、毎時間の記述の日常化を期待するものになる。しかし、ここでは、個々の制作の時間軸にそった記述をするよりも、制作に伴う記憶や経験のなかから学習のねらいにそった記述を試みている。

かつて授業の最後に、次のように記述させたことがある。

「針金を使った造形の制作過程で考えたことを（周りの友達とのやり取り等を含めて）記述しなさい。」⁶⁾

この問いは総括的であり、学習の最後に記述をさせている。学習全体の感想やそこでの学生同士のやり取りを記述するものであり、学習を振り返るよりも学習の成果を問うものになっている。さらにその記述を評価の対象にすることを企図しているために、漠然とした曖昧な問いから明確な答をできるだけ記述すること期待している。学生たちは、授業者の意図や思惑をできるだけ感じながら、それに迫ろうと記述していく。この短い時間での記述は、授業の中に強いるものとして可能であり、学生にとって面倒で悩ましいことであつたに違いない。

今回の記述の試みは、学習を振り返る道筋を視点として明確にし、そのための問いと構成を考慮している。学生達の記述を読み、学習へのまなざしの形成にとって、さらに考慮すべき点が考えられた。

1. 作品に意図したこと、主張したかったこと。

この問いは、学習の最後に問われ、跡づけになることで、学習を振り返り、記述は明確さを求められている。作品の成り立ちの内的な表意であり、学習を創造的に持続させる意欲とつながっている。制作過程は、思いを形にすることにあるが、揺れ動く思いやそこに迫るための、新たなまなざしが必要になっている。言葉の巧みさが、意図や主張を旨く表現してしまうのではなく、学習の中心を形づくる想像力や作品への豊かな感性を引き出す

問いが必要である。

2. 作品にタイトルをつけるとしたら

この問いは、「1.」へのより包括的な問いであり、タイトルが必要なわけではないが、作品への最後の言葉がけとして必要な問いである。「1.」の学習をつくりだす意欲のまとめを問うとともに、作品が完成し、それを鑑賞し、そこから自分の思いを紡ぎだすまなざしへ、タイトルと作品とのかかわりを含めてどのような問いがふさわしいのかと思う。

3. 使った材料について どこで手にいれたのか どのように加工したか

この問いは、材料の準備とその加工を集約する。作品の成立する過程における個々の材料との関わりを平易に記述することになる。使った材料と加工の記述は、「4. 工夫したこと。発見したこと。考えたこと。うまくいったこと。失敗したこと。……。」との関わりで見ると、思いを形にする現実的で、より積極的な場面であることがわかる。何を記述するかは明確であり、すべての材料について詳細に記述することは可能だろう。目で確かめ、手で材料を加工するダイナミックで創造的な場面へ、どう問うのが大切だと思う。「4.」を含めて、制作の場面へどのように問うかを、さらに考えていきたい。

5. 友達とのやり取りでためになったこと。(話したり、目で確かめたりしたこと。)

この問いは、創造性を刺激する会話や目のやり取りを記述することで、どのように自分の内部が外との交歓で形成されるか振り返ることになる。とりあえずつくり始めることで、自分の外に形成される表現のかたちを他者との関わりから、さらに創造的に学習が高まることが示されている。表現する楽しさや喜びを共有できる個々のやり取りのできるだけ具体的な場面での会話や目のやり取りを引き出し、記述できる問いが必要だと思う。

6. この課題に取り組んでの感想を、自由に。

この問いは、学生たちに広く多様な視点から、それまでの問いにない学習への振り返りを期待している。この振り返りは、制作の過程だけでなく、知識や経験や体験といったこれまでの自分とこの学習の関わりを束ねるように記述することになる。完成した作品や学習の場面を振り返り、学習を形成する意欲や興味を記述するさまざまなまなざしがここにはある。

今回の記述は、学習への問いとし、その成果を見る試みではない。学習者が構築する学習を、自身のまなざしで見えていく試みである。ここには、学習の成果が学習者のまなざしから発見され、それぞれに記述されている。さらに多様な書かれるべき発見の記述が可能なのだと思う。

模範的な記述を期待するのではなく、多様な幅を持ったまなざしからの記述を可能にする問いが大切だと思う。また、問いとして、苦痛でない記述が必要であり、何を書くべきかを強いるのではなく、学習への意識をつなぐ自覚的なまなざしをつくり出す問いが課題でなっている。

V. おわりに

造形の学習は、学生の主体性に多くを任せることで、ここでの授業者の仕事は曖昧になっている。学生の記述は、授業者が提供できない学習の不足を補完している。図1「home made」の学生は、人の作品に触れることによって、新しい発見や参考になるものがあるので、鑑賞というのも必要だと思った。と記述している。学習を相互に交歓できる鑑賞活動をこの授業ではできなかった。学習の過程での評価を含め、作品の講評やこの記述を含めた学習のまとめを交歓することが、学習を振り返るまなざしにとって必要である。授業の中に、より多くの豊かな場面を作り出すことで、振り返るまなざしは、学習の奥行きを広く、深くとらえていける。

授業者の自覚的な振り返りがより必要であり、学生の記述から、多くの授業改善の視座をもらった。

註

- 1) 3、4年生には、教育実習が1・2回目の授業にあたるため、箱の材料、プリントを配布し、材料の準備と不足した授業を補うよう授業外での取り組みを要請した。
- 2) 降籬孝「Box Artー自分の世界」、新関伸也「マインド・ボックス」
中学校美術科ワークショップ2 明治図書株式会社 P.37、P. 38、2002.6を参考にした。
- 3) 文部省 小学校学習指導要領図画工作編 平成11年5月 日本文教出版株式会社
P.114
- 4) 3)と同 P.116
- 5) 3)と同 P.117
- 6) 前任校である山形大学教育学部での「教育法図工A」の授業の最後に記述させたレポートの問いである。